「楽しそう」「やってみたい」と思ってもらえる農業を目指して。

枕崎市

マルヨシ花園 楠（くすき） 千春（ちはる）さん

マルヨシ花園を働きやすい職場に。農業を「楽しい」「やってみたい」というイメージにしていければと考えています。

経営 data

PROFILE

地元枕崎市出身。美容師を経て、結婚を機に夫の実家で就農。「楽しそう」と思わせる農業現場づくりを目指す。三児（長女9歳・長男7歳・次男5歳）の母。

事業概要

・花き栽培：輪ギク（葬祭用）、マム（スプレーマム・ピンポンマムなどの洋ギク）
・2.1ha、40カ所以上のハウスにて生産。

目指す農業のかたち

農業の「年中無休」のイメージを変えるべく、休みの取れる働きやすい職場づくりを目指しています。ハウスに自動換気システムを導入するなど、機械でできることと人にしかできないことを整理し、省力化に取り組んでいます。また、経営効率化のために出荷量や販売先のデータ管理等を行っています。

●就農のきっかけ

結婚した夫の実家が菊農家だったことが、就農のきっかけですね。結婚前は美容師だったので、農業への先入観がなかったことがかえって良かったのかも。「楽しそうだな」が第一印象です。

夫や義父母に習いながら自然に就農できました。やってみた感想は「思ったほど厳しくないな」です。あと、義母の人柄や家の雰囲気に支えられましたね。楠家はお節介なほど人を大事にする家で、長く勤めてくれている従業員もいっぱいいるんです。

義父が生産、義母がみんなに目を配る、そんな姿を一緒に働きながら暮らしながら、学ばせてもらいました。

悲しいことに、義父は昨年他界してしまいましたが、働く人が楽しそうにしている様子を、そのためのどうすれば良いかを、いっぱい見せてくれました。

母の実家が米を生産していましたが、子供の目から見ても祖父母の様子は大変そうでしたね。でも、ここではみんな楽しそうに働いてくれています。

●就農してみて苦労したこと、やりがいを感じていること

体力的にはそれほどでもないんですけど、自分たちしかできない仕事は多く、細々とした仕事は限りなくありますね。言ってみれば総合職みたいな。

でも、「農業をしているから、遊びに行けない、子育てを満足にできない」ではいけないと、なんのために農業をしているのか、を見つめ直しました。

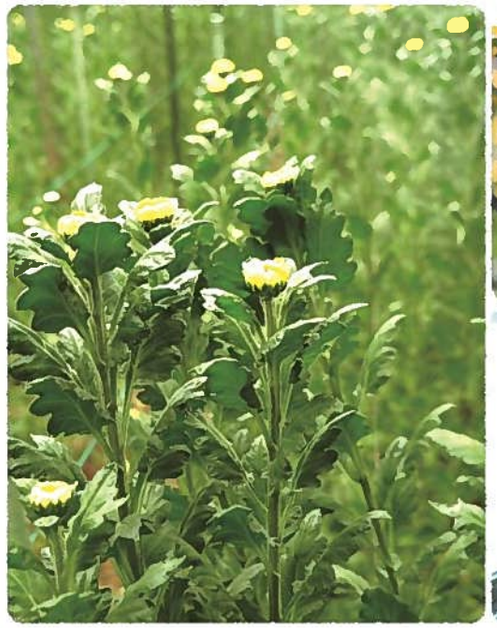
自分やみんなの働き方を改めて考えていくうちに、業務を従業員のみんなで分散し、私たちは業務を管理すれば作業が回るような仕組みをつくれればと思いました。やりがいのある挑戦ですね。

マネジメントは、わりと自分に向いてるかもしれませんね。

●目標としていること

「楽しそう」「やってみたい」と思ってもらえるような現場にしたいです。子供たちも自然に「継ぎたい」と思ってくれれば嬉しいですね。

「農業は年中無休」というイメージを変えていきたいです。そのためにも、農作業の管理や数値化は大事です。作業分散してそれを従業員へ伝え、実行してもらう、それを検証していきたいです。



夫は考え方がとても理系で数字が得意です。こつこつと農作業データを貯めて、農作業の見える化を進めています。

いろいろ訪ね歩いて、愛知県の著名な花き農家を研修させていただいたりと、さまざまな出会いもあり、今もいろいろ教えてもらっています。

私は、美容師として6年働きましたが、この技術と家業の菊をいつか組み合わせられればと夢見ています。例えばブライダル。菊は日持ちするので、いろいろな可能性を秘めています。とても綺麗で愛おしいですよ。お供えだけでは勿体ないです。

菊の生産が盛んなのはベトナムの地方都市・ダラットです。とても気候が良く、世界的な拠点です。あちらでは、生活シーンに花が溢れています。私たちも、鹿児島や日本のライフシーンに、もっと花を取り入れてもらいたいと考えています。

気候や農地の規模など、生産力では本場には敵わないので、こちらは技術と鮮度を活かしたマーケティングが大事ですね。

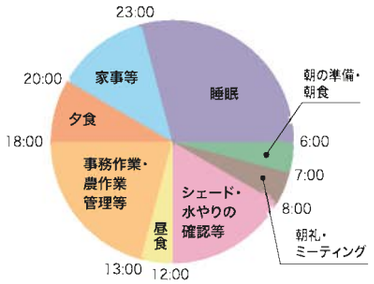
●一日のタイムスケジュール

15名（パートや技能実習生など）の従業員と自分と夫・義母と、連携しながら農作業をしています。

朝が早いイメージでしたが、それほどでもありません。始業は7時、現場にみんな集まって、朝礼とミーティングで午前の作業の申し送り（「ここまで進んだから午後はこれをやって」など）、事務作業（メール対応や経理など）と労務管理、そのあとはハウスの数値データなどを見て回る。計画通りに進んでいるか、作業進捗をチェックする。花の顔を見ながら水や光の調整をする、従業員を送り出して残務整理をする、という流れでしょうか。夫は薬散などデリケートな生産業務を担当してくれています。

基本的には毎日何かしらの作業があります。なんか、毎日そわそわしてますね。日曜は定休日ですが、出勤してくれる従業員がいて、水管理や出荷作業などをしてくれます。

忙しい毎日ですが、年中無休にならないように、機械やシステムなども導入しながら、作業分散と労務管理に取り組んでいます。



●就農を考えている女性へのメッセージ

個人的な意見かもしれませんが「そんなにつらくない」です。農業は素敵な仕事です。菊が可愛く、育つ姿を見ているだけで毎日を楽しく過ごせます。

そして、楽をしたいから何をするか、をいつも考えています。自分の仕事や人生を演出する過程が家業のブランディングになれば良いですね。農業はそれができる仕事です。

「遊びたい」と工夫する姿がマルヨシ花園のブランディングになれば、とても素敵なことですね。

●その他、農業や地域（枕崎市）の魅力など

枕崎市は、農業も漁業も盛んな地域です。漁業では鰹節の名産地。海の幸も山の幸も豊富です。

食べ物も美味しく、気候も温暖、人も優しいです。結婚をきっかけに農業経営に携わることになりましたが、忙しいながらも楽しく充実した毎日です。

鹿児島市

マルタカ菜園 迫（さこ） 智子（ともこ）さん

実家は兼業農家。農業の大変さを知ってはいたけれど嫌いではなかった。

映像会社、PC販売会社を経て、就農。農業は身近にありました。

経営 data

PROFILE

日置市出身。大学卒業後、県外で大学研究センター、映像・PC関連の仕事を経て、就農10年目の夫との結婚を機に就農。実家は兼業農家、歳を重ねても農業を続けることが目標。

目指す農業のかたち

データ収集や分析も行いながら、堆肥と土づくりにこだわり、元気な野菜づくりを目指しています。農薬や化学肥料をできるだけ減らすために天敵昆虫を導入するなど、害虫が発生しない農場作りや、エシカル（環境適合性の高い）農業も志しています。

事業概要

・パセリ12a、ラディッシュ8a、小松菜・ほうれん草1a、ハンダマ（水前寺菜）、長ねぎなど。
・ハウス16棟:ラディッシュ6、ほかはパセリ等。
・「かごしまパセリのディップ」などの加工品にも挑戦中。

●就農のきっかけ

結婚した当時、夫・孝志は就農10年目でした。「一緒にしてみないか」と誘われ、農業の世界に足を踏み入れました。

実家は日置市の兼業農家で、さつまいも、お茶、お米などを作っていました。芋掘り、茶摘み、田植え・稲刈りを手伝うなど、幼いころから身近に農業がありました。虫などへの抵抗感もありましたが、農業が嫌だとは思いませんでした。

就農する前は、大学（工学部電子工学科）を卒業して九州大学の情報基盤センターへ数年勤め、その後東京や鹿児島で映像や広告、パソコン（Mac）販売などをし、共通の趣味を通して夫と出会い結婚しました。専業農家の夫と結婚するなら、自分も農業を手伝うことになるだろうと思っていました。

このように、自然な形で就農できたのは、実家での経験を通してある程度の覚悟があったのかもしれませんね。

●就農してみて苦労したこと、やりがいを感じていること

この畑では60年ほど前から義両親がパセリやラディッシュの栽培をしていて、30年前に桜島の降灰の影響と台風対策で大型施設栽培へと切り替えました。

就農してみて分かったことは実家では作ったことのない作物ばかり、そして分からないことばかり。

最初は義母や夫から作業のやり方を教えてもらい、知識や経験を増やし、少しずつ夫と自分たちの農業の形を模索していきました。

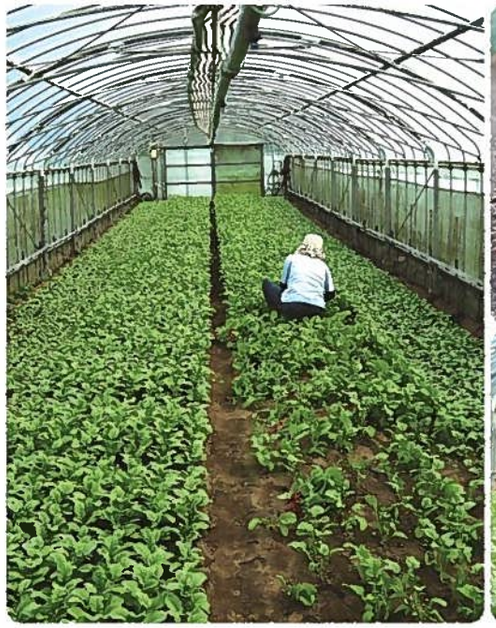
2015年には鹿児島市の農商工連携人材育成塾をきっかけに、6次産業化（生産者による農産物を使った加工・販売）にも挑戦しました。塾で紹介いただいた加工会社さんと共同開発し、当圃場のパセリを使った「かごしまパセリのディップ」を作りました。コロナ禍の影響もあり一旦休止していますが、とても良い経験になりました。いつかまた再チャレンジしてみたいですね。

●目標としていること

夫は以前から農業のある人生に憧れていて、そこに私も共感しました。利益ばかりを追求するより、生活や暮らしの豊かさも大切にしたいと考えています。

もちろん良いことばかりではありません。生活の為には収入が必要です。コロナ禍では飲食店での需要が減り、パセリの売上が半減しました。社会の変化に合わせて直売所への出荷を増やすなどし、工夫しながらどうにか乗り越えてきました。

これまではパセリとラディッシュを中心に卸売市場へ出荷していましたが、今後は直売所で消費者に直接届けられる野菜の生産



拡大なども考えています。けれど市場とのバランスやどのように周年栽培していくかなど課題も多く、日々夫と検討しています。

長期的に目指しているビジョンとして、この吉野地区の農業文化、農地を維持していき、次世代に農業のある未来を伝えていく、そして私たち夫婦も農業のある生活を、歳を重ねながら長く続けていきたいと考えています。

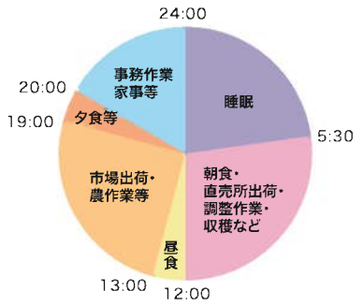
●一日のタイムスケジュール

私の朝は直売所への出荷から始まります。その後、水やりなどの栽培管理、収穫、袋詰めなどの調整作業が続きます。昼過ぎにJAへ出荷して午後は翌日の準備や栽培管理、事務作業という流れです。季節によって仕事内容やスケジュールは変わりますが、草刈りや種まきなどもやります。市場が休みの火曜日と日曜日は少し余裕がありますが、周年で栽培していますので農閑期はありません。夏は草との戦いですね(笑)。

私は学び続けることが大事だと思っています。農業は農業経営や土づくりなど学ぶことは限りなくあります。例えば農薬の最新情報や正確な知識、農業技術を身につけなければ安全な野菜作りはできません。

従来の農業を引き継ぎつつ、有機農業の現実についても情報を集めながら、減農薬や減化学肥料栽培などを試行結誤しながら行っています。

これからも農業のプロとしての矜持を持ちながら、真摯に農業と向き合っていきたいと考えています。夫はICTやプログラムの



知識があるので、データを管理しながら勘だけに頼らない持続可能な農業に向けて夫婦で毎日議論しています。環境負荷とのバランスを考えた農業を実践していきたいのです。

●就農を考えている女性へのメッセージ

夢は壊したくないのですが、農ある暮らしは豊かだと感じつつも憧れだけではやっていけないと思います。現実はなかなか厳しいですが、興味のある方は是非チャレンジしてほしいと思います。まずは農業研修などを受けてみて、少しずつ体験してみることをおすすめします。

そして困ったときには夢や苦労を語り合える農業女子の仲間に飛び込んで私たちに話してみてください。案外すぐ解決することもありますよ。

●その他、農業や地域(鹿児島市)の魅力など

実家に暮らしていたときは田舎が大嫌いで、伯母達からも「農家の嫁にはなるな」と言われて育ち、都会へ憧れて県外に出ていきました。それなのに都会から見ると「鹿児島は宝の山」だと感じたのです。何もないと思っていたけど、素晴らしい物が沢山ありました。

自然に囲まれて、春の訪れ、夏の暑さ、秋の枯れ草の匂い、冬の霜柱、それが身近にある幸せを感じています。忙しい毎日でなかなか余裕がありませんが、四季の移ろいを感じてほっとしています。

女性農業者の会にも積極的に参加するようにしています。今は鹿児島市を中心とした語り合いの場である「ポタジェファム」や鹿児島県域から集まる「かごしま農業女子プロジェクト」などの女性農業者ネットワークの会長をさせてもらっています。(2023年現在)

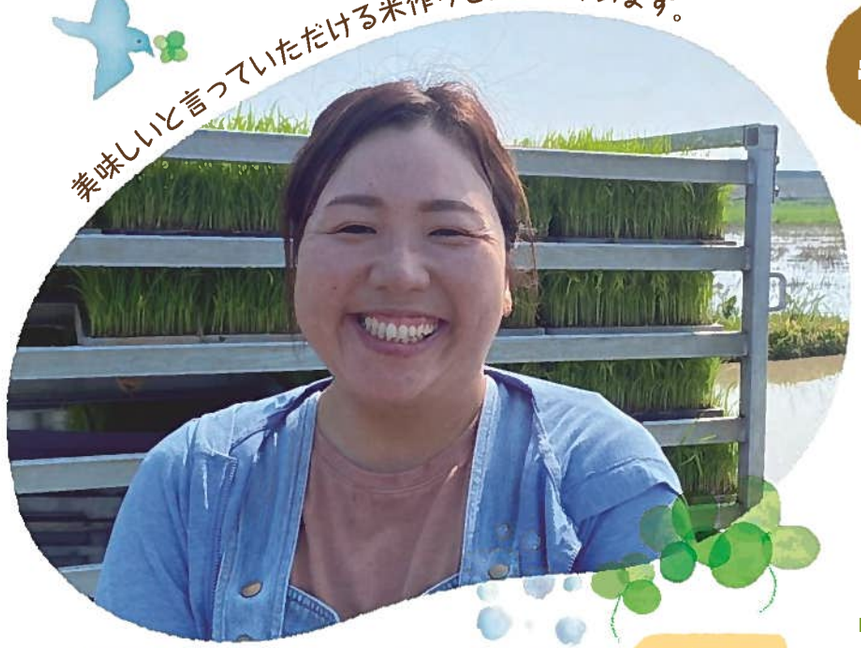
このような社会活動を通して、農業を軸にしながら、自分たちのできる範囲で地域や社会に貢献していきたいと考えています。

出水市

（株）鶴秀 時吉涼子さん

お米の美味しさと魅力を、もっと多くの人々に知ってもらいたい。いつか、農業と福祉を繋ぐ、農福連携もやってみたいです。

美味しいと言っていただける米作りを目指しています。



経営 data

PROFILE
出水市出身。大阪・岡山で介護福祉士を経て、第一子妊娠を機に、岡山出身の夫とともに帰郷。両親の水稲栽培を手伝うことに。三児（長男12歳・次男10歳・長女8歳）の母。

目指す農業のかたち
出水平野の広大な土地で、多品種のお米を栽培。「鶴秀のお米は美味しい」と言っていただけるお米づくりを目指しています。また、耕運・田植え・稲刈り・籾摺りなどの農作業代行も拡大していきます。

事業概要
・作付面積：約24ha（東京ドームの約5倍）。
・米の栽培・販売、受託作業等。
＊2023年11月からツル観察センターで「おにぎりカフェ」オープン

●就農のきっかけ

大阪と岡山で介護福祉士として働いていたのですが、結婚後に第一子を出産して半年ほど経ったころに、「子育てをしながら農業をしたい」と考え、岡山出身の夫とともに私の実家に帰郷し、両親の水稲栽培を手伝うことから始めました。

自分は子育てをメインに、少しずつ手伝うようになっていきました。岡山でサラリーマンだった夫・貴洋が両親に弟子入りし、米づくりを一から学んでいきました。父は3年前に体調を崩し、現在では夫が継承しています。

私の実家は代々水稲農家で、父：秀次（ひでつぎ）で7代目、夫は8代目です。初代は明治21年に熊本県八代市から出水市へ移住し、荒崎干拓の開墾に大きく貢献しました。300年以上前のことです。

出水市は、シベリアから越冬のために出水平野へ約1万6千羽の鶴が飛来する「鶴の町」です。その鶴にちなみ、父の名前から一文字とって法人名を「鶴秀」としました。

●就農してみて苦労したこと、やりがいを感じていること

実家の米づくりは、子供の頃からよく手伝っていたので理解していました。父も、農作業を手伝っている私に目をかけてくれていたようにも感じているので、3姉妹のうち「継がせるなら涼子かな」というイメージが父の中に漠然とあったのかもしれません。

米の品種は多様で、コシヒカリ・ミルキークイーン・なつほのか・ヒノヒカリ・あきほなみ・さつま雪もちなどです。その他、飼料米・WCS・加工用米も生産しています。お米の美味しさと魅力を、もっと多くの人々に知ってもらいたいです。それが今の大きなやりがいのひとつです。

介護の仕事は、ハードでしたが大好きな仕事です。けれども「この業界だけでなく外の空気を感じてみたい」という気持ちはありました。そうした意味で、介護の仕事の時も、今の農業の仕事も、あまり苦労は感じていません。根が楽観的なのかもしれませんね（笑）。

今の米づくり、農業の仕事も苦労しながらも楽しく営んでいますが、介護の仕事にも未練はあります。ケアマネージャーやコーディネイトの仕事もいつかやってみたいです。それが農業とつながればもっと良いですね。

●目標としていること

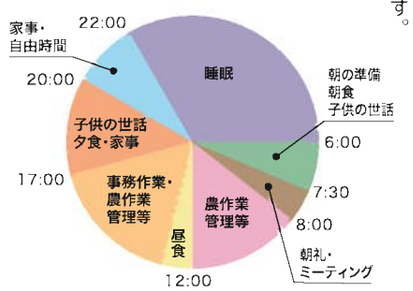
2013年に法人化したので、まずは、農業経営としてきちんと収益性を確保したいです。6次産業化にも取組中です。2023年11月に「おにぎりカフェ」をオープンしました。米の消費に繋がるような活動ができればと考えています。イベントなど、米の普及啓発や食育の活動をしたいと、米粉マイスターやお米ソムリエ、発酵食品ソムリエなどの資格を取得しました。

ケアマネージャーの資格にも挑戦中で、いつか農業と福祉を繋ぐ、農福連携に関わることもやってみたいです。私の介護福祉士としての経験を活かして高齢者と農業を繋ぐなど、ご高齢の方が社会とのつながりを持てるようなこと、将来的にはですが、高齢者福祉と農業を掛け合わせるようなことに取り組んでみたいと思います。

●一日のタイムスケジュール

時期によっても違いますが米の栽培時期は、8時くらいから始業して、草刈りや畔の見回り、午後は草刈りや圃場管理、米の袋詰め作業場の見回り、事務作業、伝票整理、ふるさと納税の発送業務などでしょうか。17時以降は子供の世話をすることが多いですね。夕ご飯を終えて、夜中や朝、あるいは雨の日などにレシピ開発をしていることもあります。私は料理が好きなので、レシピ開発は楽しいですね。

夫は水の管理や農作業・農業経営全般を担当しています。私の担当は、苗の管理や数字管理、税理士さんとのやりとりなどです。



年間のスケジュールは、大まかに、2月育苗、4月から6月に田植え、8月から10月に稲刈り・収穫という流れです。現在は、2名の方がパートで手伝ってくれています。

●就農を考えている女性へのメッセージ

仕事が好きな人や、身体を動かすことが好きな人には向いていると思います。また、いろんな作業があるから、飽きっぽい人にも良いかもしれませんね（笑）。

農閑期があって、冬はゆっくり休めるので、水稲栽培はお奨めです。12月と1月は比較的ゆっくりと過ごせます。パートナーの理解も大事ですね。5年前から夫が法人の代表を継いでいるので、経営的な面にも目配りをしていきたいです。夫は大阪の大学（経営学科）を出ているので、経営診断などにも積極的です。自然や環境、社会などを大事にしながら、経営としての農業にも目を向けることが大事だと思っています。

●その他、農業や地域（出水市）の魅力など

出水市は鶴ですね。たくさんの鶴が飛来してくる様子は圧巻です。あと、食材は何を食べても美味しいです。私の好きなお肉はもちろん海の幸も山の幸も豊富にあります。出水には鹿児島食材の魅力が凝縮されているようにも感じています。

幼少の頃、家業は海苔養殖もやっていました。このように、出水市は海も農地もあって、気候も温暖です。この地域の魅力を皆さんに知っていただきたいです。

かぼちゃの魅力に目覚めて就農！時間をうまく生かして楽しんでいます！

伊佐市

諏訪（すわ） 沙弥佳（さやか）さん

かぼちゃは好きでしたが、生産をするイメージは全くありませんでした。「私にもできるんだから、やってみたらいいよ」と言っています。

経営 data

PROFILE

球磨郡多良木町出身。歯科衛生士や工場勤務を経て、夫の実家のある伊佐市にて就農。県や地域農業者等の助けを借りながら、品質の高いかぼちゃを生産。二児（長男15歳・次男12歳）の母。

事業概要

・露地栽培：
春かぼちゃ、秋かぼちゃ、水田ごぼう。
・75a、50a、35a。

目指す農業のかたち

農業法人に勤める夫の影響から、2015年にかぼちゃ生産を開始。就農より10aあたりの収量も地域内トップクラス、A品質比率も全収量の9割以上。また、複式簿記の知識を習得し、経営改善に生かすとともに、女性農業者組織との交流で農産加工活動にも参加しています。

●就農のきっかけ

最初は歯科衛生士を数ヶ月、そのあとは工場勤務をしていました。

息子は12歳と15歳です。夫は農業法人に勤め、かぼちゃとお米を生産しています。その夫のすすめもあって、2015年より就農しました。「生活するのにお金があった方がいいな」という理由からです。

夏の3ヶ月間に生産したかぼちゃの収入が、パート1年分の収入を越えました。

それまでは、ルアーの塗装工場へパートに行き、9時から3時まで勤務していました。その工場は、お魚（川）の解禁日の関係で夏は暇でした。その期間を利用して、働きながらかぼちゃ栽培をやってみたところ、思った以上の収入となりました。

そんな経緯からパートをやめて農業に専念することにしました。農地は、夫の友人である畜産農家の方に紹介して頂き、大豆の生産をしていたところを引き継ぐかたちで貸してもらいました。

農業は、やってみたら楽しかったです。県の指導員や地元の方々に教えていただきながら農業技術を習得しました。これからやろうとしている人には「私ができるくらいだから大丈夫だよ」と伝えています。

●就農してみて苦労したこと、やりがいを感じていること

かぼちゃは好きでしたが、生産することは全く考えていませんでした。実家は兼業農家でお米をつくっていましたが、手伝ったことはありません。農業に良いイメージがありませんでした。

かぼちゃの生産も最初はうまくいきませんでした。排水できず水に浸かってしまったり、失敗もありましたが、パートをやめて農業に専念してからはうまくできるようになりました。

心が折れそうになったことはありません。自分は性格的に深く考えないタイプかもしれませんね（笑）。

家族で年に2回ほど旅行に行くのですが、そこでいっぱい遊ぶことがモチベーションになっています。

●目標としていること

現状が維持できれば良いと思っています。春かぼちゃ収量が10aあたり200ケースを越えることを目標としています。

ずっと達成できていたのですが、去年の春は少し下回りました。その分、秋はうまくできて、挽回することができました。今のところは収量が安定しています。これを維持していきたいですね。

このまま収入を安定させることができたら、高校時代からずっと仲良くしている友達と韓国へ旅行に行きたいですね。

そして、これまではかぼちゃのみを生産していましたが、ここ3年ほどはごぼうにも挑戦しています。春と秋にかぼちゃ、冬にごぼうという1年を通した栽培です。

収入が目的で始めた農業ですので、きちんと収量と収入を確保したいです。そんな考えもあり、複式簿記も習得しました。

●一日のタイムスケジュール

夏は涼しいときに作業を進めておきたいので、忙しいときは5時くらいから始めます。2週間くらいずっと芽かきをしている時期もありますね。

6時半に一度家に戻って子供を起こして朝ごはんを食べて、8時半から午前中いっぱい作業するような流れでしょうか。

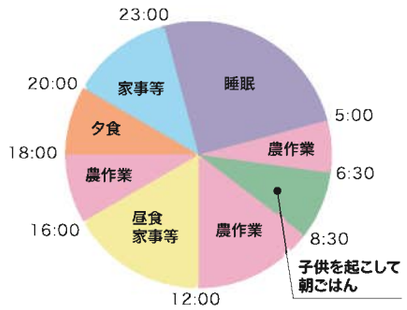
芽かきのあとは皿敷きや蔓のばしなど、ずっと同じことを1日やっていることが多いですね。

夏は昼に出ずに朝の5時からなど、涼しい時間に作業するようにしています。

要領も良くなってきて、あまり時間をかけず作業を進められるようになりました。

自分のペースで作業計画を立てられるので、学校行事やPTAにも行きやすいです。

1年を通じ、春と秋にかぼちゃ、冬にごぼうを生産しています。春かぼちゃは、3月に播種、4月に定植、6月から7月に収穫。秋かぼちゃは、8月に播種、10月



～11月に収穫。1月から3月はごぼう、という流れです。

1日の労働量としては、会社勤めの頃より働いている時間は短いと思います。

収穫期は、夫や子供にも手伝ってもらい、楽しくやっています。出荷時期などは夜遅くなることもあります。

去年（2022年）は収量が多すぎて、そんな日が多くありましたが、やればやっただけ収入につながるので、それがやる気になっています。

●就農を考えている女性へのメッセージ

相談されたら「私にもできるんだから、やってみたら。かぼちゃはいいよ」と言っています。

子育てにはそれなりにお金がかかりますし、農業は、頑張ったらその分だけお金が残ります。

これまで私に相談に来た人で、ふたりくらいはかぼちゃの生産を始めた人たちがいると思います。このような就農者が伊佐市で少しずつ増えてきているので、もっと増えてくれれば良いですね。

●その他、農業や地域（伊佐市）の魅力など

この地域の気候は、私の故郷である熊本県多良木町に似ています。多良木もですが伊佐のお米も美味しいですよ。最初は言葉がわからなかったのですが、地元の言葉と違うことがかえって新鮮で楽しかったです。

私の場合、夫の故郷ということもあると思いますが、かぼちゃ農家さんをはじめ地元の方々と仲良くさせていただいています。

これまでも、現場を何度も見せてもらったり、親切に色々と教えてくれたりと、みんな優しくしてくださり、とても感謝しています。

諏訪さんへの
インタビューを
動画でも
ご紹介しています
▼

霧島市

窪田（くぼた） 加奈子（かなこ）さん

人も牛もハッピーに。牛が大好きです。そんな農業女子のことを知っていただきたいです。

人と牛をハッピーにするために自社生産にこだわっています。

経営 data

PROFILE
鹿児島市吉野町出身。鹿児島県立農業大学校卒業後、海外研修と鹿屋市で酪農ヘルパーを経て、結婚を機に夫の畜産業にて就農。六児（長女17歳・長男15歳・次女13歳・三女11歳・次男9歳・三男7歳）の母。

目指す農業のかたち
「人と牛をハッピーにする」という企業理念のもと、安全で美味しいお肉をお届けしたいという思いを大切に、お肉への加工も牛に与える牧草も、自社生産にこだわっています。牛も人もストレスなく自由に動き回れるよう、山中の広大な土地で元気に生活しています。

事業概要
- 繁殖牛450頭（育成牛100頭・放牧牛20頭）・肥育牛100頭・子牛300頭
- 牛舎数:10棟　飼料作付面積:30ha　放牧面積:17ha
- ステーキ肉・ローストビーフ・ソーセージなどの加工品（6次産業化）にも挑戦中

●就農のきっかけ

私は県立農業大学校で学び、酪農家を目指していました。大動物との農業を夢見ていたのです。

大学校を終えてデンマークへ1年間ほどファームステイ。そこでグラスフェットビーフやオーガニックの現場を学ぶことができました。

帰国してからは鹿屋市で酪農ヘルパーをやりながら、どうやって酪農で新規就農できるかを考えていました。

そんな中で、大学校の同級生で夫となる敏と再会。結婚をきっかけに夫の実家である和牛畜産業を始めました。

悲しいことに、結婚してまもなく義母が亡くなりました。よく家のことを見てくれた母でした。今は、義父や夫が家のことを見てくれて、私を外へ出してくれます。これは義母の価値観によるものだととても感謝しています。

農業は自由に見えますが、ひとりでやっているわけではないので、県・振興局や市役所、農協、そして同業者の方々とのお付き合いはとても大事です。そのような交流の機会を家族みんなでつくってくれています。

●就農してみて苦労したこと、やりがいを感じていること

結婚して就農し、最初の1～2年は休みなしで毎日仕事していたように思えます。

畜産というのは生き物相手なので、毎日何がしらの仕事があります。結婚してすぐに長女を授かったのですが、子育てしながらの農業は苦労もありました。娘たちにも簡単に「農家の嫁になれ」とは言えませんね。

就農から3年を経て50頭ほど増頭しましたが、未知のことが多くありましたね。窪田家は和牛畜産を3代続けていますが、牛が増えるとやり方も変わるため、戸惑いも多くありました。

やがて経営が安定した時期に、家族経営でもまわせるとは思いましたが、外部従業員を雇うことにしました。牛飼いにも休みがほしいと考えたからです。

現在では、2017年より外部従業員を1名雇用し、家族従業員6名で構成しています。

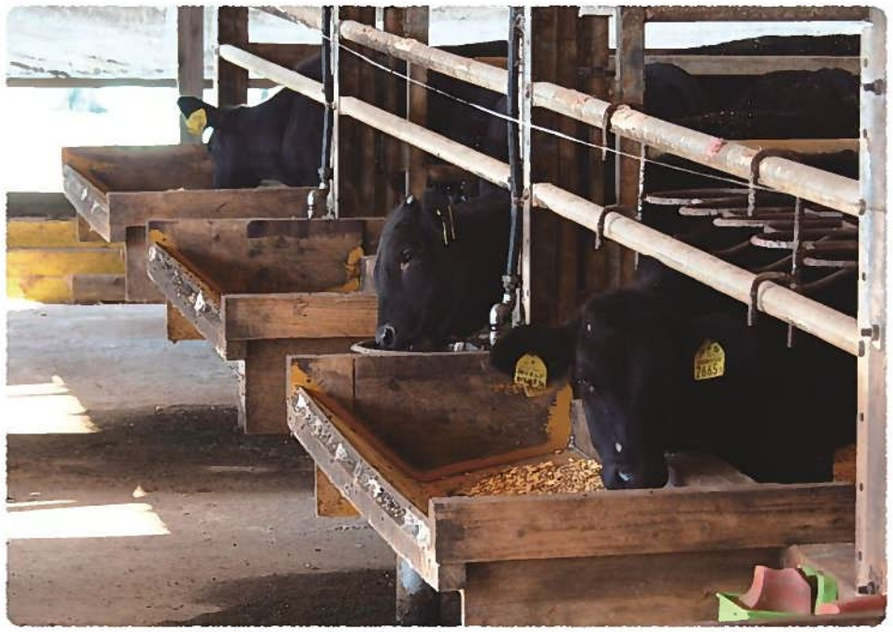
農業者として充実した毎日ではありますが、経営的な目線も大切に、スマート機器を導入するなど、農作業の合理化やワークライフバランスを考えながら続けていきたいです。

●目標としていること

牛が大好きです。そんな農業女子のことを多くの方々に知っていただきたいという思いがあります。

そして、持続可能性を大切にして、仕事と生活のバランスをとりながら、無理なく続けていきたい。窪田畜産ならではの家族経営のかたちをつくりたいと考えています。

夫はとても経営感覚に優れた人だと尊敬しています。この人



とパートナーになりたいと思って結婚しました。そんな夫の能力を活かしながら、自分ができる挑戦をしていきたいです。

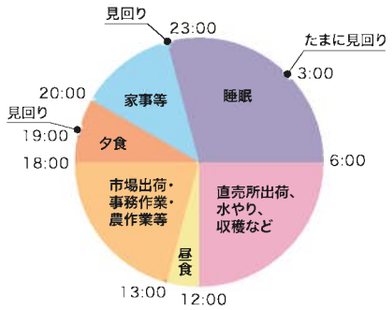
今は繁殖牛が7割ほどですが、肥育牛の比率を高めていきたいです。そして、精肉や加工品の販売にも徐々に挑戦していますが、やがては焼肉店の経営などもできれば良いですね。和牛の美味しさをもっと多くの人々に知っていただきたいです。

また、放牧牛の頭数を現在の20頭から50頭へ増やすこと、経産牛の付加価値化などを目標としています。

●一日のタイムスケジュール

朝は6時から見回りをして、子牛へミルクをあげて、8時ごろから事務作業、お客様対応など。午後からまた見回り、餌やり、そのあとはまた子牛へミルク、牛舎の掃除、という流れでしょうか。見回りは曜日ごとに担当しています。

畜産業は命を預かる仕事です。子牛は下痢が3日続けば死んでしまいます。まだまだ失敗もありますが、常に情報収集しながら、スマート農業なども取り入れて、無理のない農業経営をしていきたいと考えています。



●就農を考えている女性へのメッセージ

農業をしたいと思ったら、まずは研修に来てやってみてほしいです。

鹿児島で美味しいものを食べて、食資源の豊かさを身をもって実感してもらえれば良いと思います。そして、農業の現場を体験

を通じて知ってもらいたいです。

いま、「姶❤LOVE（あいらぶ）和牛女子」「コスモスクラブ」「さつまおごじょ」「農村女性リーダーネットワーク」「ファームネットあいら」など、女性農業者の交流の場づくりに積極的に取り組んでいます。

地元の女性農業者の先輩たちは20年前からそんな活動を続けていて「教えるべき」という思いを持ってくださっているようで、農業について教え合う風潮があります。そういう場を継続させたいと思っています。

苦しみや楽しみを共有し、組織はどうあるべきか、女性がどうして農業現場にいるのかについて話し合っています。

私も20代30代の若い方々へ教えられることがあれば教えたいし、自分自身も農業女子の歴史をもっと学びたいと考えています。

このコミュニティは、ポテンシャルやモチベーションを高めることができる大切な場所になっています。

●その他、農業や地域（霧島市）の魅力など

まとまりとなりますが、鹿児島も霧島も、美味しいものがたくさんあります。もちろんお肉もとても美味しいです。

私は自分が美味しいと思うお肉を消費者の方々へお届けしたい、という思いがありますが、そんなこだわりを持った生産者も多くいます。

また、鹿児島や霧島の地域農業の魅力を、行政関係の方々や学生の方々や子供たちにも知ってもらいたいと、研修や視察の受け入れを行っています。そして、この地域や農業女子をもっともっと盛り上げたいと考えています。

窪田さんへの
インタビューを
動画でも
ご紹介しています
▼

鹿屋市

妹尾（せお） 亜利沙（ありさ）さん

一人でできる範囲の小規模農家のモデルケースになりたい

農業は人生観が変わります。心が豊かになりますね。今は迷いは微塵もないです。やってて良かったといつも思っています。

経営 data

PROFILE

地元鹿屋市出身。高校卒業後に上京し、工務店にて鉄筋工。大阪へ移り、スーパーと居酒屋勤務、居酒屋経営を経て、親の介護をきっかけに帰郷し、和牛畜産業にて就農。

目指す農業のかたち

大規模経営は目指していませんが、小規模農家としてのモデルケースになりたいと考えています。牧草は近所の借地にて自家栽培し、堆肥も利活用しています。一人でできる範囲を考えながら、繁殖牛30頭くらいを目指していきたいと考えています。

事業概要

・繁殖牛20頭。一人でできる現段階の適正規模。借地牛舎1棟。
・牧草の自家栽培率は50%程度、少しずつ比率を高めたい。

●就農のきっかけ

私は女子校の家政科を卒業したのですが、東京へ行き最初に就いた仕事は建設会社の鉄筋工でした。工事の骨組みですね。

勤めた工務店は5年で解散し、その後は一人親方など、ニッカボッカと地下足袋を履いた生活は17年間続きました。

1990年のリーマンショックをきっかけに職業を変えてみようと、大阪の居酒屋へ就職しました。スーパーの店員と掛け持ちしたり、居酒屋の経営などもやりました。

定期的に帰省し、実家の芋掘りの手伝いなどをしていました。鹿屋市は畜産が盛んで、実家も庭先で肉牛肥育をやっていたこともあり、牛の肥育だったら二人でもできるのではと思い始めました。

やがて、母の介護をきっかけに帰郷し、実家が牛を飼っていたものの自分自身は牛の知識はほとんどなかったため、鹿屋市の担い手育成事業を活用して市内の牧場で研修し、飼養や牧草の管理を1年半ほど学びました。その後、20頭規模を目指して独立就農することにしました。

今のこの場所は借地です。空き牛舎を貸してもらい、知人から機械を安く譲り受けるなど、地元の方々に助けていただきました。

●就農してみて苦労したこと、やりがいを感じていること

畜産は想像以上に大変な仕事でした。生き物相手ということもあり、今でも不安との戦いです。子牛が生まれてすぐに亡くなってしまったり、今度は親牛が亡くなったり、いつも死と隣り合わせです。1～2年目はこのようなことが多くありました。最近は減りましたが、それでも年に一度は何か不測の事態があります。

相談相手は、農協や県の普及指導員の方々、そして、市の担い手育成事業の研修でもお世話になった女性農業者さんでしょうか。その方は私の憧れです。

帰郷してからとても人に恵まれました。多くの方々にお世話になり、とても感謝しています。

●目標としていること

今のところ、法人化などは考えず、限られた中で一人でやれることを考えながら、地道にやっていきたいです。

30頭くらいまでは増やせればと考えていますが、牛舎の増設などは考えていません。まずは安定的に経営すること。ようやく自信が少しついてきました。

大規模経営は目指していませんが、一人や少人数でできるような、小規模農家のモデルケースになれれば良いですね。

現在は牧草の生産自給率が50%ですが、少しずつ増えていきそうです。堆肥の活用や、鋸屑なども市内の工務店などから分けてもらって敷料に使うなど、いろいろな工夫をしています。

今は賃貸ですが、いずれはこ

の場所も所有できれば良いですね。この周辺の農地からも「買わないか」と言っていただけることが増えました。

あと6年ちょっと、初期投資の返済が終われば、少し拡げることを検討しても良いかもしれませんね。

このような小規模経営をあと20年続けられればと考えています。そのあとはクルージングで世界旅行をすることが夢です。

●一日のタイムスケジュール

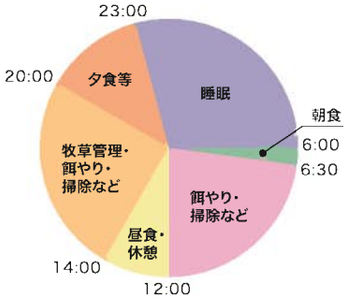
ほぼ毎日休みなしですが、自分のペースでゆとりを持って作業しています。時には県外にも出ています。そのときは知り合いにベテランの方がいるので、餌やりを頼んだりしています。

基本的には実家から牛舎へ出勤し、7時半から作業開始、餌やりや掃除などを朝と夕方に行っています。途中、畑で牧草の管理をして、夜の7時ごろに終業というのが基本的な流れです。

昼の休憩を長くとっています。2時間くらいでしょうか。毎日が充実しています。一人でやっているため、人間関係の煩わしさが一切ありません。生き物相手の農業は、不安もありますが面白いですね。

牛が餌を食べなかったら、なんでだろうと考えたり、知り合いに聞いたり、小さな悩みは日々あります。それを一つ一つ発見しながら解決する、そんな毎日です。この生活は、自分には性に合っているように感じられます。

知り合いが猫や犬を連れてくるので、自然に動物が増えました。牛はとても可愛いです。手放す時はとても寂しく、愛着があります。でも、競り場では「高く」「なれ！」と念じてしまうんですね。



●就農を考えている女性へのメッセージ

迷わずお薦めします。農業は人生観が変わります。心が豊かになりますね。

あと、動物は自分の鏡のようです。自分が苛立つと牛も苛立つんです。なので、牛の前に立つ時は朗らかでいるようにしています。小さなことにクヨクヨしない、と考えるようになりました。以前は自身に否定的でしたが、この仕事をやることで少しずつ自信が芽生えてきたように思えます。

地元へ帰り畜産業を始めた自分を、温かく迎えて支えてくださった地域の皆さんのおかげです。本当にありがたいです。

若い頃はお金を求めがち。ずっと老後を気にしていましたが、「お金より大切なことがある」ということにようやく気づくことができました。

●その他、農業や地域（鹿屋市）の魅力など

鹿屋市や大隅半島は、景色がとても良いです。海は綺麗で、食べ物がとても美味しいです。

海あり山あり、食資源や自然環境が豊かです。ドライブも最高です。豊かなライフスタイルを「めちゃ感じて」います（笑）。

人生を達観することができました。農業は年齢を関係なくやれます。健康なら定年もなくずっと働けます。今は迷いは微塵もないです。やってて良かったといつも思っています。

西之表市

山下（やました） 美湖（みこ） さん

自営でできる冬場の安定した仕事を模索するうちに、スナップエンドウの栽培へと辿り着きました。

丁寧な栽培とこだわりの土づくり、安心安全な作物を届けたい。

経営 data

PROFILE

山口県周南市出身。高専にて土木建築工学を学び、地元ゼネコンへ就職。熊本県にてラフティングガイドを勤め、種子島へ移住。冬場の仕事を求め、スナップエンドウ農家として就農。二児（長男12歳・長女10歳）の母。

事業概要

・スナップエンドウ15a。
・シーカヤックガイドの閑散期による冬季栽培。

目指す農業のかたち

ライフワークとして行っているシーカヤックガイドの閑散期、冬期の仕事を得るために、種子島の基幹作物であるスナップエンドウの栽培を2015年に開始。単収は地域内トップクラス。丁寧な栽培と土づくりにこだわり、美味しく安全安心な作物を消費者の皆様へお届けしたいと考えています。

●就農のきっかけ

山口県で生まれ、高専で専攻科の2年を含めて7年間、土木建築工学を学びました。

その後、地元のゼネコンへ就職しましたが、社会人1年目で衝撃的な体験がありました。熊本県球磨川でのラフティングです。

10代の頃はアイスホッケーのクラブチームに所属するなど、体を動かすことが好きだったんですね。ラフティングというスポーツに魅せられ、ガイドという職業に憧れるようになりました。そして3年目、ラフティングガイドへと転職しました。

種子島へ移住したのは、同僚で恋人だった夫が勤めていた支店が閉店することになり、閉めるなら自分たちが引き継ぎたいと、ワゴン車へ荷物を積んで夫と島へ渡ってきました。

ここで夫とアウトドアガイドの会社を立ち上げ、閑散期である冬期の仕事を自営したいと、スナップエンドウの栽培を始めました。

冬場にパートに出ることもあったのですが、アウトドアガイドの予約もときに入るため、自営でできる冬場の安定した仕事を探すうちに、スナップエンドウへと辿り着きました。

●就農してみて苦労したこと、やりがいを感じていること

大変な思いは、たくさんありました。1年目は大きな台風が立て続けに来ました。寒波や雪もありましたね。

農業をやってみて感じたのは、天災は一様ではないということ。でも、需要と供給のバランスは良く、なんとか育てれば安定して収入が得られます。そこが農業の魅力であり、やりがいです。

農業って大変だと思いつつも、ようやく今年あたりから、頑張れば収入が得られる、苦労も頑張りも収入として帰ってくる、ということを実感できるようになりました。

観光業は長くやってきたのである程度の想定はできますが、農業は未知なもので戸惑いも多く、ハードルが高いというイメージがありました。

ですが、JAの方が丁寧に教えてくださったり、農家を回っていると「○○さんのところへも行ってみたら」と紹介してくださったりと、皆さんとても優しく教えてくれました。そうした経緯で、とりあえず1年やってみよう、から始まり、もう8年経ちました。

単収は、1年目で地域内2位になり、2年目は1位。この10年で地域内1位となったことは3～4回あります。

多分、スナップエンドウだけを狭い土地でやっているからだと思います。馬鈴薯も数年間やりましたが、今はオフシーズンの仕事もせずに、スナップエンドウ栽培に専念しています。

●目標としていること

子育てを最優先に、そのために

何ができるかを考えています。コロナ禍で観光業は大打撃でしたが、抗わずにやってきました。

季節雇用で5～6人の方々がいた頃もありましたが、コロナ禍ですっかりと下火となってしまい、まだ充分に回復していません。

ガイド業はとても精神をすり減らす仕事です。ライフワークですから辞めることはないですが、観光業を副業として考えることも選択肢のひとつです。今は、ライフプランを再度模索しています。

種子島の暮らしは好きなので、農業と観光業をうまく組み合わせて続けていきたいです。農業は県やJAの指導員がきちんと教えてくれる、地域の主力産業です。ちゃんとやれば収益が得られます。

シーカヤックの実績とノウハウの蓄積など、頑張って作り上げてきた世界観と農業を融合させていきたいです。もう少し収入を安定させて、自由に旅行できるようになりたいですね。

農業の目標は、現在の15ａで三反分（30ａ）の収量を得ることです。馬鈴薯をやめたのもそれが理由ですが、限られた農地面積でスナップエンドウの世話をしっかり行い、反収と品質を高めていきたいです。

「そこまでしなくても」という作業を、自分も夫もしてしまいます。畝をそこまで真っ直ぐにしなくても、雑草をここまで刈らなくても、とやった後に思ったりしますが、その労力が役に立っている、きっと単収にもつながっていると思います。農業仲間でしっかり成果をあげている人は多くいます。お互いを高め合う、素敵な仲間です。

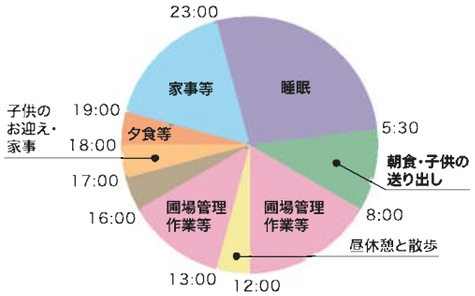
●一日のタイムスケジュール

7時過ぎに子供を送り出し、8時には畑へ出て、スナップエンドウの誘引など、管理作業を行います。収穫期はずっと収穫していますね。

ランチのあとは散歩して、農作業は3時に終わりたいけどやはり5時近くまでかかることも多く、子供のお迎えはぎりぎりになってしまいます。

かつては、クリスマスの夜に車のライトを照らして作業したこともありますが、今では要領もだいぶ覚えて、日暮れ前に終えることができます。

年間の流れは、夏に畑を整備し始め、石灰や土壌を整えながらタネ蒔き、10月から管理作業、12月から5月まで収穫できます。5月から7月にはウミガメの産卵調査のお手伝いなどもしていますね。7月から8月は観光業の繁忙期。このように1年が過ぎていきます。



●就農を考えている女性へのメッセージ

観光業を自営したうえで農業を始めてみて思ったことは「こんなに教えてもらえる仕事はない」ということです。

県やJAの方々、農家さん同士の情報交換、自治体からの給付金や制度など。普通に比べると、とても優しくしてもらえていると感じます。

勇気とやる気さえあれば、教えてもらえる環境は整っている、間口が広い、と感じています。

●その他、農業や地域（西之表市）の魅力など

今の生活に特に不満がありません。今のペースで続けられれば良いですね。種子島はとても景色が良く、ランチのあとの散歩はとても価値ある時間です。

農業もとても好きになりました。お金がなくてもそこそこ生きていけると、ますます思えるようになりました。

奄美市

ワイワイファーム 金城（きんじょう） よしのさん

島を出て気づいた、奄美の魅力。就農直後の挫折によって、生まれた覚悟。

お客様とのつながりを大切に夫婦二人で農業を楽しんでいきたい。

経営 data

PROFILE

地元奄美市出身。大学卒業後、農業関連機関を経て、海外及び市内の研修センターにて栽培技術を学び、結婚とともに果樹農家として就農。二児（長男9歳・長女6歳）の母。

目指す農業のかたち

夫婦二人で奄美大島小湊にてパッションフルーツ&タンカンを栽培。Facebook　等で発信しながら、生産物のほとんどはお客様へ直販しています。よしひろ&よしのでワイワイ!と農業を楽しんでいきたいと、ワイワイファームと名付けました。

事業概要

・パッションフルーツ12.5a。タンカン栽培のために、樹園地を購入。
・お客さんから直接注文を受けて発送する直販スタイル。

●就農のきっかけ

大学は農学部で学びましたが、当時は農業で生きていこうという気持ちはなく、熱帯作物の研究などをしていました。

それでも、農作業には興味を持っていたため、農業試験場で土壌分析などのお手伝いをしていました。そこで出会ったのが現在の夫です。彼と同じ職場で働くうちに、本格的に農業をやってみたい、就農するなら故郷の奄美で、という思いが少しずつ芽生えていきました。

また、奄美へ帰省するたびに「こんな良いところに住んでいたんだ」という気づきがありました。体を動かすのが好きだったこともあり、自然の多い奄美へ帰るなら、室内の仕事ではなく農業をやりたい、という気持ちが育まれていきました。

そして、興味がある海外研修などに参加し、帰国後いくつかの職種を経験するうちに、やはり、故郷で農業をしたいという想いが強くなりました。そこで、就農に必要な資金を確保するために、一度県外で働き、一定の資金が確保できた後、奄美市営農支援センターでパッションフルーツの栽培を学び就農しました。

●就農してみて苦労したこと、やりがいを感じていること

就農1年目で大きな挫折がありました。市の研修所が貸してくれたハウス（サポートハウス）でパッションフルーツを栽培し、初収穫を楽しみにしていたのですが、例年より早く大きな台風が来てしまい、全滅してしまいました。

さすがにショックを受けて数日ほど落ち込みましたが、周りの先輩たちは慣れていて、「だめなら次」という姿を見て、自分も泣きそうになりながら片付けをしているうちに、かえって覚悟が決まっていきました。

その後、サポートハウスの期限を終えて農地を探しました。譲り受けた中古ハウスを移設して2棟で始めたのですが、再度、台風による被害に遭いました。その時は農業青年クラブなどに助けてもらいながら作り直したのですが、その後もいろいろなピンチがありました。

このように、周りの仲間や先輩達に助けられながら、どうにか乗り越えてやってきました。現在は、息子が9歳、娘が6歳です。夫婦で協力して、子育ても農業も、苦労しながらも、楽しんで続けています。

インターネット販売は行わず、fax・電話・メールで注文をいただいて発送するという直販スタイルで地道にやっています。この方法の特徴は、お客様から喜びの声がダイレクトに届くことです。いちばんのやりがいは、そんなお客様の喜びの声です。

真夏の作業など、体力的にきついことも多いですが、できあがった商品をお客様に喜んでもらえると嬉しい気持ちになります。

また、農繁期以外の比較的時間が取れる時期は、夫婦二人で学校行事に参加できることも農業の魅力です。

●目標としていること

就農してからの経験で、パッションフルーツのような施設栽培は台風の影響を受けやすい面もあるので、タンカンの栽培にも挑戦してみたいと考えるようになりました。

そして、知人からの紹介で樹園地を購入し、タンカンの栽培を始めました。その後も家から20～30分圏内の範囲で、徐々に栽培面積を増やしていきました。

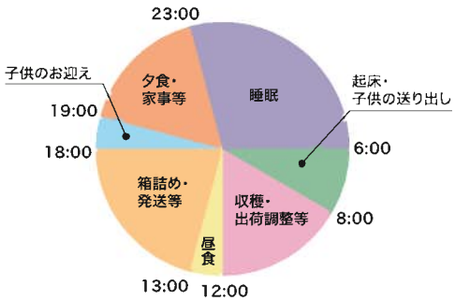
今は売上の7～8割がパッションフルーツですが、徐々にタンカンの比率を増やしていきたいです。老木の植え替えもこれからの課題だと考えています。

農閑期は、ほかの農家でアルバイトなどをしていますが、いずれは加工品の開発などにも挑戦してみたいです。

そして、奄美のパッションフルーツやたんかんのおいしさを知る人は未だ少ないので、もっと積極的に宣伝していければと思います。

●一日のタイムスケジュール

例えばパッションフルーツの収穫期なら、起床後に学校と保育所へ子供を送り、午前に収穫と出荷調整、昼食後の午後からは箱詰め・発送、夕方に子供のお迎え、夕飯を食べて寝かせて、時にはその後に出荷作業するなど、そのような流れです。



●年間のスケジュール

タンカンは、2月の収穫後、作物の生育状況を見ながら年間を通して施肥、剪定、環境整備、病害虫防除などをします。

パッションフルーツの植付は、10から11月。その後、整枝や誘引をします。3月から4月に受粉して5、6、7月に収穫します。収穫後は片付け、苗づくり、土づくりなどを行います。

●就農を考えている女性へのメッセージ

農業を仕事としてやっていきたいという気持ちと、覚悟さえ決められれば、何かあっても続けていけると思います。実際にやってみないとわからないことばかりなので、「ぜひ挑戦してみてください」と言いたいです。

●その他、農業や地域（奄美市）の魅力など

奄美の気候は温暖なので、加温しなくてもマンゴーやパッションフルーツなど多くの亜熱帯作物が栽培ができます。旬のパッションフルーツは本当に美味しいと思います。

島ですから、自然に囲まれていて海も近いです。農作業を終えて泳ぎに行ったり、子供と川エビをとりに行くこともあります。毎日子供と笑顔で過ごす時間が多いです。

そして、ここは個性的で魅力にあふれる人が多いと、島を出て改めて感じました。そんな人々と毎日の暮らしの中でふれあい、地元のつながりを楽しんでいます。

また、「ｋｏｍｏｒｅｂｉ」という女性農業者グループを結成しました。インスタグラムでの情報発信を学んだり、マルシェで消費者と交流したり、そんな活動を楽しみながら、地元の農業女性の交流を深めていければと考えています。

金城さんへの
インタビューを
動画でも
ご紹介しています
▼